

- 第1次世界大戦(大正3年~7年)に、日本は日英同盟を大義名分に対独参戦 時の首相は大隈重信

— 民衆政治家と藩閥政治家の死 —

大隈と山県有朋は大正11年の新年早々、共に83歳で亡くなった。大隈の葬儀は1月17日に日比谷公園で行われたが、報知新聞の死亡広告が4段抜き。読売新聞は葬儀を「法被、前垂、丸鬘と参拝者は数十万 飛ぶ飛行機 流れる群衆 午後の日比谷の雑踏」と伝えたが、まさに国民葬だった。

山県の国葬は2月9日、同じ日比谷公園で行われたが、招待状2千枚を出したのに出席者は3分の1くらい。東京日日新聞は「大隈侯は国民葬 きのふは「民」抜きの「国葬」で幄舎の中はガランドウの寂しさ」と書いた。

▽大隈は 2度首相 薩長の藩閥政治の外にいて
いつも「民衆の味方」といった 国民的な人気

- 第2次大隈内閣(大正3年4月)が、日本の分水嶺

▽拙速なまでに 対独参戦を急ぎ

ドイツの租借地 青島(嶗山)を占領

「中国に対する野心の表われ」として

英米の疑惑を招き 日英同盟廃棄につながる

▽中国に「21カ条要求」を突き付け

反日・抗日運動に 火を点けることになった

▽日本が 国際的な孤児となり

満州事変 支那事変 太平洋戦争へと

戦争につながるレールは 大隈内閣の時に

- 政治の「真空状態」の中で生まれた大隈内閣

▽日本の政治を 動かしていたのは

陸軍→長州閥 海軍→薩摩閥

衆議院第1党の政友会 官僚勢力代表の貴族院

…… 4大勢力が手傷を負い「四すくみ」に ……………

明治天皇が亡くなり元号が大正に改まると、

陸軍は2個師団(5万人)増設を強硬に要求。第2次

西園寺公望内閣(政友)に拒否されると、陸相が

辞職、軍部大臣現役武官制(陸海軍大臣は現役の大將、中將に限

大隈 重信(おおくま・しげのぶ)

天保9(1838)~大正11(1922) 肥前佐賀藩出身。長崎で英学、蘭学を学び外国事務局判事を経て、明治3年参議。6年大蔵卿。「14年の政変」で免官。翌年立憲改進黨総理となり東京専門学校(現狀)創立。21年伊藤内閣外相。黒田内閣に留任、22年条約改正交渉中、爆弾を投げられ、右足を失う。31年憲政党を結成、史上初の政党内閣を組織したが、閣内不一致で4か月で総辞職。大正3年再び首相となり対独宣戦布告、対支21カ条要求を行う

山県 有朋(やまがた・ありとも)

天保9(1838)~大正11(1922) 長州藩出身。陸軍大將・元帥。奇兵隊軍監。戊辰戦争で官軍参謀。明治2年欧州を視察、6年陸軍卿。軍政確立、徴兵令制定に当たり11年参謀本部長。18年内相。22年首相となり、枢密院議長を経て日清戦争で第1軍司令官。31年第2次内閣を組織し文官任用令改正、軍部大臣現役武官制実施。日露戦争では参謀総長。元老、長州閥総帥、陸軍の大御所として政界、軍に君臨

— 「山県の耳、大隈の口」 —

山県は人の話をよく聞き、情報にも敏感な人だった。対する大隈は、喋り出したら止まらない。「あるんである」演説で語尾をのぼし、得意な時には「あるんであるんである」

門戸開放で千客万来。談論風発、「早稲田の道は世界に通ず」と豪語し「早稲田の大風呂敷」と陰口されたが、ちょっと憂鬱な気分を訪ねた人も2、30分して帰る頃には、晴れ晴れした、いい気分になったという。

る)を盾に後任を送らず、陸軍が内閣を倒した。

第3次桂太郎内閣(訓、輝大將)も、「憲政擁護・閥族打破」の国民の大合唱に53日で崩壊した。政党、世論の力が内閣を倒した最初だった。

この「大正政変」の後、山本権兵衛内閣(輝、輝大將)は政友会を与党に、行財政整理を断行したが、シーメンス事件(艦艇をめぐり汚職)が暴露され、貴族院が海軍拡張予算を否決、大正3年度予算不成立となって総辞職に追い込まれた。

▽山本内閣総辞職(大正3年3月24日)で 元老会議

元老は 山県 井上馨 松方正義 大山巖 西園寺

▽後継首相推挙は「全員一致」が議決要件 難航した

▽徳川家達(貴族院)を推したが 辞退され

清浦奎吾(樞密院)に大命(3月31日) 組閣に入った

鰻香(まじょう)内閣

貴族院中心の政権構想に政友会、立憲同志会など4党が反対声明。時事新報は「政党に基礎を置かない内閣を組織するのは時代遅れであり、大正三年の街頭にちょんまげ、帯刀の人が踊り出たような異様さだ」海軍も臨時議会を開いて海軍補充費950万円の承認を要求、話し合いがつかず、4月7日大命を辞退した。

組閣が難航している時、清浦の感想「まあ、鰻屋の前を通っているようなもので、匂いだけはするが、御膳立はなかなか出来ないわい」が新聞記事になって、「鰻香内閣」の名を残す。

▽4月7日 昭憲皇太后崩御 1年間の服喪に

▽翌日の元老会議で 井上は 長年の政敵・大隈を

「自分たちが往年、明治維新の大業を成就したのは、一に情弊を打破して国論の存する所に従ったためだ。その国論は薩長閥に反対している。

この際は、まるで薩長と関係がなく国民の間に人気のある大隈を出すのが一番よかろう」

▽山県は ためらった

大隈は「今こそ国民内閣を作るべきだ」と声明

「元老何するものぞ。彼らは最早脱け殻だ。元老に頼らなければ内閣を作れないようでは、日本の恥ではないか」と 気炎をあげていた

西園寺 公望(さいおんじ・きんもち)

嘉永2(1849)～昭和15(1940) 京都生まれ。公家の名門・清華家の出。明治4年渡仏。文相を経て33年枢密院議長。36年政友会総裁となり39年首相。44年第2次内閣を組織したが、陸軍増師問題で辞職。大正末からは元老として後継首相奏請

桂 太郎(かつら・たろう)

弘化4(1847)～大正2(1913) 長州藩出身。陸軍大將。明治31年陸相。34年第1次内閣を組織、日英同盟締結、日露戦争を遂行。41年第2次内閣で韓国併合。大正1年内大臣兼侍従長。12月第3次内閣を組織したが、護憲運動で53日で総辞職

山本 権兵衛(やまもと・ごんべい)

嘉永5(1852)～昭和8(1933) 薩摩藩出身。海軍大將。明治31年海相となり大正2年首相。行財政整理を断行し軍部大臣現役武官制を改正。12年第2次内閣を組織したが、虎ノ門事件で4か月で辞職

井上 馨(いのうえ・かおる)

天保6(1835)～大正4(1915) 長州藩出身。維新後、大蔵大輔を経て明治11年参議。18年伊藤内閣外相。農商務相、内相、蔵相を歴任し、財界に重きを成した

松方 正義(まつかた・まさよし)

天保6(1835)～大正13(1924) 薩摩藩出身。明治11年大蔵卿となり、日本銀行条令、兌換銀行条令制定。24年、29年首相。金本位制を実施。赤十字社長、内大臣

大山 巖(おやま・いわ)

天保13(1842)～大正5(1916) 薩摩藩出身。陸軍大將・元帥。明治18年陸相。日清戦争で第2軍司令官。参謀総長を経て日露戦争で満州軍総司令官。内大臣

▽結局 山県が同意したのは「民衆の大火事は早稲田のポンプでなければ消せない」の声
▽「大隈内閣」には 藩閥反対の国民感情
憲政擁護の民衆運動を 鎮めたいという狙いも
▽全国新聞記者連合会も 大隈に出馬を要望
「時局を收拾して立憲政治を確立する者閣下を措いて他になし」(4月12日)

●大隈内閣は、国民の拍手喝采の中スタート(4月16日)
▽立憲同志会と 尾崎行雄らの中正会をバックに
▽「当世花咲か爺さん」ともてはやした新聞も
▽大隈も意気軒高 記者会見で
「勇将の下には弱卒無し。諸君は飽迄大隈内閣たるの一事を記憶せんことを望む。風浪険悪の際に当って我輩は政治上必ず何事かを為す可し」

●その実体は、大隈の「脱け殻内閣」だった
▽大隈が 非難攻撃してきた元老と 妥協し
その後押して 初めて出来た内閣
▽看板は「大隈内閣」でも 実質的には
外相の立憲同志会総裁「加藤高明内閣」
▽加藤は 大隈の協力要請に 2条件
閣僚人選一任 全ての政策についての事前了解
..... 加藤は気心の知れた者で内閣を固めた
難問の海相には同じ愛知県出身、誕生日も同じ(1861年1月3日)で少年時代から親しい八代六郎中将に。主要閣僚も蔵相若槻礼次郎、内相大浦兼武と、第3次桂内閣で一緒に仕事をした仲。

▽まず 地方官吏の大更迭(4月28日)
福岡 群馬 長野 宮城 青森県知事を休職
政友会系の知事 11人を免職 35人を転任

●日露戦争後の悩みは、借金だけあって金のないこと
▽大隈は「営業税・通行税全廃」が 持論
野党時代の立憲同志会も
「減税要求」を武器に 政友会を攻撃してきた
減税どころではなかった
日露戦争の戦費を外債でまかなったため、外債発行額は12億8千万円。利子支払いだけでも

徳川 家達(とくがわ・いえさと)

文久3(1863)～昭和15(1940) 江戸生まれ。旧徳川将軍家第16代。明治23年貴族院議員となり、36年から30年間議長。ワシントン会議全権、赤十字社長

清浦 奎吾(きよら・けいご)

嘉永3(1850)～昭和17(1942) 熊本県生まれ。司法次官を経て貴族院議員、法相を歴任し、明治39年枢密顧問官。大正11年枢密院議長。13年首相に就任するも、第2次護憲運動が起こり5か月で辞職

尾崎 行雄(おさき・ゆきお)

安政5(1858)～昭和29(1954) 神奈川県生まれ。明治23年以来衆院当選25回。文相、東京市長を歴任し大隈内閣法相。昭和27年代議士生活63年で「名誉議員」

加藤 高明(かとう・たかあき)

万延1(1860)～大正15(1926) 愛知県生まれ。三菱に入社、岩崎弥太郎の知遇を得て英国留学、女婿に。明治21年大隈外相秘書官兼政務課長。27年駐英公使。33年伊藤内閣外相。第1次西園寺内閣外相を経て駐英大使。大正2年桂内閣外相となり、立憲同志会総裁。大隈内閣外相。5年憲政会を組織し総裁。13年首相。普通選挙法、治安維持法を成立させた

八代 六郎(やしろ・ろくろう)

万延1(1860)～昭和5(1930) 愛知県生まれ。海軍大将。海大校長、舞鶴鎮守府長官を経て大正3年海相。第2艦隊長官

若槻 礼次郎(わかき・れいじろう)

慶応2(1866)～昭和24(1949) 島根県生まれ。桂、大隈内閣蔵相を経て大正15年首相。昭和6年再び首相となるも満州事変で8か月で辞職。著に「古風庵回顧録」

年間1億円超。陸軍の師団増設要求に海軍の軍艦建造費。年間5、6億円の国家予算で3分の1が公債償還、利子の支払い、3分の1が軍事費に。

- ▽若槻蔵相は 加藤と相談 大隈の口を封じよう
- ▽若槻から 財政説明を聞いた大隈は 演説会で
「営業税を廃止するなど、そんな馬鹿なことがあるもんか。そんなことを唱える奴は大馬鹿者」
- ▽若槻「大隈なればこそ、他人には出来ない芸当」

●大隈内閣は、「国防会議」設置を提案したが…

- ▽軍事費を整理し 国防と財政を調整
首相を議長に 外務・大蔵・陸海相と
参謀総長 軍令部長を メンバーに
- ▽陸軍が 異議を唱えた
「国防というのは統帥権、軍隊を動かすことで、それは軍人がやることだ。文官などが入って口出しすることじゃない」
- ▽名称を「防務会議」にして 6月23日に設置

…… 有名無実にならなくなった「防務会議」 ……

最初の会議で、若槻が財政の実情を説明すると、長谷川好道参謀総長は顔色を変え「これはいかん。おい、行こう」と陸相を促し、退席してしまった。若槻は「それから会議が開かれたかどうか記憶にない」と、回顧録に書いている。

●大隈内閣を救ったバルカン半島サラエボの銃声

- ▽オーストリア・ハンガリー帝国皇太子夫妻がサラエボ訪問中 6月28日
セルビアの青年に 暗殺された
- ▽英 仏 露など 連合軍4,200万と
独 奥など 同盟軍2,300万の 正面衝突
4年余りに 死傷者3,700万の 第1次世界大戦へ
- ▽「大正新時代の天祐」と 井上馨
- ▽ヨーロッパの戦場から 遥かに遠い日本は
空前の軍需景気に 沸いた
- ▽国際収支と財政「双子の赤字」を
あっという間に 解決しただけでなく
債務国が一躍 債権国になった

大浦 兼武(おおうら・かねたけ)

嘉永3(1850)～大正7(1918) 薩摩藩出身。明治31年警視總監。桂内閣で内相などを歴任し大隈内閣内相。大正4年の総選挙で選挙大干渉を行い辞職

古島 一雄(こじま・かずお)

慶応1(1865)～昭和27(1952) 兵庫県生まれ。新聞日本、万朝報記者を経て明治44年衆院議員(当選6回)。戦後、自由党総裁鳩山一郎の公職追放で後任に推されたが、吉田茂を推薦、その指南番に

大隈の囲碁

古島一雄が、囲碁から見た政治論に書いている。大隈は、正式に囲碁を学んだことはなく、定石を知らなかった。その特色は、勘定の早いことで、小を捨てて大を取る。政治上の問題で、素早く利害を識別し、機先を制する手腕そっくり。

長谷川 好道(はせがわ・よしみち)

嘉永3(1850)～大正13(1924) 長州藩出身。陸軍大将・元帥。明治45年参謀総長。大正5年朝鮮総督となり、武断統治を行ったため、朝鮮民族の抵抗で8年辞任

バルカン半島(Balkan)

ヨーロッパ大陸の南東部。地中海と黒海との間に突出する大半島。ギリシャ・ブルガリア・アルバニア・旧ユーゴスラビア諸国・ルーマニアなど。長い間、トルコに支配されたため、多数の宗教・民族が複雑に入り組み、対立と抗争の歴史を繰り返していた。

サラエボはボスニア・ヘルツゴビナ共和国の首都。キリスト教・イスラム教文化圏の接点。オーストリア・ハンガリー帝国が明治41年(1908)セルビアから奪い併合、大戦の遠因に。昭和59年冬のオリンピックが開かれた。

大戦には日露戦争が影響

ロシアの海の出口は、北のバルト海しかない。「南へ出たい、海へ出たい」は建国以来の悲願。1853年、黒海から地中海へ出ようとして英仏と戦い敗れた(クリミア戦争)。西の出口を止められ、東の太平洋に出口を求めウラジオストック(海軍基地)、シベリア鉄道を建設、旅順を手に入れたところで日露戦争で日本と戦って敗れた。

極東南下政策は大きく躓き、再びバルカン半島に方向転換せざるを得なくなった。その結果として、バルカンに出ようとしていたオーストリア、同盟国ドイツとの対立を深めた。

ドイツは日清戦争後、露仏と日本に三国干渉(露仏を露仏に返させる)したが、露を日本と対立させ強大な陸軍力を極東に釘づけにする。その間に、オーストリアのバルカン進出を助ける狙い。

大正に入り2度のバルカン戦争が行われたが、バルカン諸国に軍事援助、対立を煽ったのが露・奥両国だった。ロシアはセルビア、ギリシャ、ルーマニア、モンテネグロに、バルカン同盟を作らせ、黒海入口のトルコ、ブルガリアを孤立させ、地中海に出ようと。オーストリアも、ドイツと4国同盟を打ち出したところへサラエボ事件。

ウィルヘルム二世(Wilhelm)

1859~1941 ドイツ皇帝(在位1888~1918)
海軍拡張、三国干渉で国際緊張を激化、第1次大戦を招く。退位後オランダ亡命

岩崎 弥太郎(いわさき・やたらう)

天保5(1834)~明治18(1885) 土佐の郷土の出。明治7年の台湾征討で軍事輸送に協力、三菱財閥の基礎を築く。大隈参議を後ろ盾に郵便汽船三菱を設立し、日本最大の海運会社にした

▽オーストリアは 7月28日 セルビアに宣戦布告
ロシアが 軍事動員を始める

ドイツは 8月1日ロシア 3日フランスに宣戦
4日には イギリスが ドイツに宣戦布告

▽「バルカンの火薬庫」に 点いた火を

ヨーロッパ全域に 燃え広がらせたのは

ウィルヘルム二世(徳皇)の野心 英仏の警戒心

▽対独参戦に向け 日本を走らせたのが 加藤外相

●加藤外相は、元老の干渉を排除しようとした

▽重要な国策決定には 元老が 必ず加わっていた

歴代外相は まず 外交文書を 元老に届け
意見を求めるのが 慣例だったが

加藤は 一切しなかったし 報告もしなかった

頭も切れたし、外交にも自信満々

加藤は東大を出て三菱に入社、岩崎弥太郎に見込まれて英国留学、帰国後長女と結婚、副支配人に。岩崎は大隈が参議時代、その後ろ盾で海運業を発展させたから、加藤は明治21年、大隈外相の秘書官兼政務課長となり条約改正交渉を立案。33年44歳の若さで伊藤内閣外相。大隈内閣では4度目の外相で、この間、駐英公使・大使も歴任した。

日露戦争直後の39年、外相職務とは関係ない鉄道国有化に反対して西園寺内閣外相を辞職した。「九州鉄道を経営している三菱の意向で辞めた」と取り沙汰されたが、実際は戦後も満州で軍政を続ける陸軍に、これでは「責任ある外交は出来ない」と抗議しての辞職だった。

加藤には傲岸だ、貴族的、官僚的だ、包容力がない、といった批判があるが、大正15年首相在任中に議会で倒れて亡くなった時、新聞が「剛直な意志、それが加藤の性格だ」と書いたように、節を曲げない外交官の信念を持っていた。

▽「外交は、閣議決定に基づいて外交機関が当たる」

陸軍にも 元老にも 「二重外交はさせない」

▽加藤は「最初から英国の勝利を確信していた」

信ずる余り 一切 妥協しない剛直さが

元老との間に 再三摩擦 拙速な外交にも

- イギリスは最初、日本参戦までは望んでいなかった
 - ▽戦争が極東に波及 日本の中露進出を警戒した
 - ▽大隈内閣は 8月4日 臨時閣議を開き 政府声明
 - 「我が政府は厳正中立を期するものであるが、万一、日英同盟の目的が危険に瀕する場合は必要の措置を執る」同盟をステップに 参戦の意向
 - ▽山東半島・青島には ドイツ東洋艦隊根拠地 巡洋艦3隻など 艦船17隻 約5千の守備兵力 仮装巡洋艦エムデン(3,650ト 10砲10門)のインド洋での行動が 英商船の脅威の的に
 - ▽英外相グレーは 8月7日「日本艦隊が通商破壊のドイツ軍艦を捜索し、撃破してほしい」
 - ▽覚書で「アン・アクト・オブ・ウォー」(一種の戦断行為)「宣戦布告をしない武力行使」を意味し 日本には 参戦は求めず 日本海軍の 限定的な武力援助を 求めてきた
 - ▽加藤には「渡りに舟」 英大使に「英国政府の満足を得るよう努力するが、日本の援助をドイツ仮装巡洋艦に対する場合にだけ限ることはどうだろうか」

- 夜10時、大隈私邸で緊急閣議が開かれた
 - ▽加藤は まず「同盟の誼からいっても、一方が困っている時に助けるのは当然ではないか」
 - ▽第二に挙げたのが 極東からドイツ勢力を一掃し 日本の上国際上の地位を 一段と高める利益 そして「日清戦争の時、日本はドイツの三国干渉でひどい目にあった。青島に手をつけるのは、報復のいい機会だと思う」
 - ▽直接 火の粉をかぶる心配のない 気楽な戦争 慎重論は出たが 8日午前2時 対独参戦を決定
 - ▽8日夕 元老を交えて 閣議 「加藤外交」に 強い不満が出たが 元老にも 閣議決定したものを 引っ繰り返す力はない

- イギリスは9日、日本の参戦に「待った」
 - ▽「東亜の戦争は支那内部の騒乱を誘発し、延いては東亜全般の戦争となり、英国貿易に大打撃を及ぼす。英国政府の確答あるまで軍事行動を見合わせてほしい」加藤の参戦決意は 揺るがない

日英同盟

明治35年1月締結。どちらかが2国以上と戦う場合、他方は参戦義務を負った。独・仏が露につくのを牽制した防守同盟。日露戦争では日本の敵は露だけ、英は好意的中立を守った。日露戦争中の38年8月、英の希望で改訂され、敵が1国であっても参戦義務を負う攻守同盟に強化された。

44年7月、再改訂され、米国を条約の対象から外した。「英米親善」を国是とする英の要請だったが、その際、目的を前文で「東亜及び印度」における平和の確保と、同地域の「領土権」「特殊権益」保護、と定めた。

そして第2条で、両国の一方が「挑発スル事ナク」他国から攻撃、権利の侵害を受けて交戦する時は他の同盟国は「直チニ来リテ援助」することになっている。ただし、その場合は事前に両国間で「充分ニ且ツ隔意無ク」協議した上で行動する(第1条)

だからイギリスが参戦しても、戦場がヨーロッパである限り日本には参戦義務はないことになる。

同盟は大正10年12月満期を迎え、日本は継続を希望したが廃棄された。

…… 山県は注文をつけた ……………

まず求めたのがドイツに対する配慮。「このまま参戦すれば、日本は永久にドイツの恨みを買うことになる。日英同盟を基軸に考えるにしても、イギリスに不信感を与えるような真似は出来ない。英国の要請により止むを得ず参戦するのだということを、ドイツは勿論、列国にも納得させるようにしなければならない」その手順も踏まずに参戦するのは以ての外だ、というのだ。そして「ドイツ側を攻撃する時は、あくまでイギリスが主で、日本は従となるべきだ。」

●8月15日夜、ドイツに最後通牒

▽最後通牒に3週間の猶予を求めていた山県は「日本の外交は叩きつぶされた。加藤は眼中にあるのは自分だけで、国家という観念がない」

▽ドイツの回答がないいま

日本は8月23日ドイツに宣戦布告

▽9月2日 第18師団(欠)の5万が山東半島上陸

11月7日には青島を占領した

▽英軍は天津の居留地保護の1個大隊が参加形の上では日英共同作戦になったが

あくまでも日本軍中心の戦いだった

▽山県が求めたようにまず手順を踏んで

英国が納得するまで待っても遅くなかった

▽ドイツの通商破壊作戦に悲鳴をあげ

懇願する形で日本海軍の援助を求めてくる

●国内世論は、対独参戦をどう受け止めたのか

▽どの新聞も 軍事的・経済的利益拡大の意義を強調し 歓迎した中で 唯一の例外が

東洋経済新報社説「好戦的態度を警む」

▽執筆者は30歳の論説記者 石橋堪山

日本が 軍事行動を拡大して

「野心を遂げようとするならば、それこそ我が国家を危険に投ずる事件を起こす」と警告

●実は山県も、「日本はこの機会に日中関係の改善を図り、連携を緊密にせよ」と、大隈、加藤に意見書

中国は「辛亥革命」に揺れていた

明治44年10月、辛亥の年に武昌で「滅清興漢」を合言葉で始まった武力蜂起は、1か月も経たないうちに孫文が唱えた「三民主義」(民族主義、民権主義、民生主義)が中国全土に広がり民主主義革命となっていた。45年1月1日、孫文を臨時大總統とする中華民国臨時政府が南京に成立した。

しかし、北洋軍閥首領袁世凱が2月12日、宣統帝を退位させ清朝が滅亡すると袁が大總統に就任、北京を首都と定め中華民国が成立した。袁が孫文の国民党を弾圧、国民党急進派が武力抵抗するなど、不安定な情勢は続いていた。

青島を攻撃し中国領土の侵犯問題でも起これば、非難されるのは日本だけだ」

日本政府の対独最後通牒

「23日正午迄ニ無条件ニ応諾」するよう求めた。①日本及支那海方面ヨリ独逸国艦艇ノ即時ニ退去スルコト退去スルコト能ハサルモノハ直チニ其武装ヲ解除スルコト②独逸帝国政府ハ膠州湾租借地(青島)全部ヲ支那国ニ返還スルノ目的ヲ以テ 1914年9月15日ヲ限り無償無条件ニテ日本帝国官憲ニ交付スルコト

日本艦隊の地中海派遣

イギリスは開戦直後の9月2日、地中海への艦隊派遣、11月2日にはダーダネルス海峡派遣を要請してきた。政府は「青島、南洋諸島占領以外は、極東域と太平洋の警備に止める」と、参戦方針を決定し、5年2月に巡洋艦4隻、駆逐艦4隻のシンガポール派遣以外は拒絶した。

しかしドイツの111隻のUボートの被害は深刻だった。地中海で5年後半だけで256隻の商船が沈められ、6年1月再び地中海派遣を要請してきた。日本が2月に巡洋艦明石、駆逐艦8隻をマルタ島に派遣したのは、ドイツの「無制限潜水艦作戦」実施宣言、日本が占領したサイパン島など南洋諸島についてイギリスが有利に計らう、との内諾を得たから。

地中海にはさらに駆逐艦4隻が増派されたが、その献身的な活躍は、連合国各国の感謝と称賛の的となった。英軍兵士満載の大型客船がイタリア沖で撃沈された時は、3千人を救助して英国王から勲章を授与された。駆逐艦榊は魚雷攻撃で艦長以下59人の戦死者を出したが、マルタ島に慰霊碑が建てられた。

山県意見書

欧米列強が、戦乱で中国に力を向けられないこの機会に、日中関係を改善、日本を信頼させる必要がある。それには、袁世凱に相当の援助を与えて、政治・経済の日中協力の必要を自覚させる。政治上・経済上で外国と関係のある問題は、まず日本と相談し決めるようにさせる。中国は日本にとって貿易上の一大市場となるもので、中国との関係はすこぶる重要だ。

▽大隈内閣は この意見書には 見向きもしなかった

●「明治維新は薩長土肥によって成った」

▽大隈の肥前佐賀藩は 倒幕戦争の第一戦

鳥羽伏見の戦い(慶4年1月3日)に参加していない

▽維新の大業に 名を列ねることができたのは

藩主 鍋島閑叟の存在が 大きかった

▽大隈も「王道の人であった」

▽閑叟は 産業を奨励し 道路を作り

豊かになつた 藩の財政から

西洋文明 科学技術導入に 金を注ぎ込んだ

▽佐賀藩は 参勤交代がない代わり

外国との唯一の玄関口 長崎警備を命じられた

▽長崎を守るため アームストロング砲 ライフル銃

最も近代化された 洋式軍隊を持つ藩だった

▽薩長から 懇願される形で 倒幕戦争に参加

▽代々 教育に 力を入れた藩

「異学の禁」はなく 蘭語 英語の勉強は盛ん

▽19歳で 長崎留学の大隈の先生は フルベッキ

「私は二人の有望な生徒を持った。それは副島種

臣と大隈だ。彼らは新約全書の大部分を研究し

アメリカ憲法の大体を学んだ」

▽佐賀藩は 大隈 副島 江藤新平など

有能な人材を 新政府に 送り込んだ

●大隈の特技は弁舌、討論 — それに英語の武器

▽新政府 外国事務局判事の大隈は

とんとん拍子で 出世していった

…… 新政府最初の難問が「浦上事件」 ……………

浦上は長崎市北部の原爆爆心地。戦国時代に

石橋 堪山(いしばし・たんざん)

明治17(1884)～昭和48(1973)東京生まれ。明治44年東洋経済新報に入社、自由主義的な立場から論陣を張り昭和14年社長。戦後吉田内閣蔵相。追放解除後に鳩山内閣通産相。31年保守合同後、初の自民党総裁選で岸信介を破り首相に就任したが病に倒れ2か月で辞任。34年訪中し、日中国交回復の土台を作る

孫文(そんぶん)

1866～1925 中国の革命家。明治28年広東で決起したが失敗、日本、アメリカに亡命。38年東京で中国革命同盟会組織。辛亥革命後、臨時大総統に就任したが、袁世凱に地位を奪われ反袁闘争を続けた。大正12年第1次国共合作を実現させ国民革命への道を開き、「革命の父」に

袁世凱(えん・せいかい)

1859～1916 中国の軍閥政治家。辛亥革命で革命派と結び、宣統帝を廃位、臨時大総統に。独裁政治を行い大正4年自ら帝位についたが、反帝政運動に失脚

鍋島 閑叟(なべしま・かんそう)

文化1(1814)～明治4(1871)幕末の佐賀藩主。本名直正。16歳で家督を継ぐと藩政改革に着手。粗衣粗食令を出し、小作料を免除して自作農を保護。職制改革、均田制を行い、反射炉で大砲製造、日本初の蒸気船を進水させた。維新後、新政府の議定、開拓使長官など歴任

フルベッキ(Herman Verbeck)

1830～1898 オランダ生まれの宣教師。安政5年長崎に来日。幕末維新の指導者多数を教育した。明治2年大学南校教頭となり、岩倉使節団欧米派遣など、政府に助言した。19年明治学院創立に参加

切支丹大名・大村純忠の支配地だったため、徳川時代になっても表向きは浄土宗ということにし、キリスト信仰がひっそり守られていた。

ペリー来航に続いて、長崎に外国人居留地が開かれ、元治1年フランス人神父が大浦に天主堂を建てると、浦上の隠れ信者は、時代の変わりを肌で感じて、公然と信仰を表わし、参拝するようになった。長崎奉行所は信者を捕えたが、当時の幕府は政治上、軍事上フランスに頼っていたため、徹底的な弾圧はできずにいた。

ところが新政府九州鎮撫総督・沢宣嘉は慶応4年5月、信者114人を一斉検挙し各藩に預けて監禁した。津和野藩(鯛)には信者28人と家族125人が預けられたが、扱いは苛酷を極めた。乙女峠の光琳寺(こうりんじ)に監禁、氷の池に投げ入れる水責め、90°四方の小箱に押し込める3尺牢。改宗を拒んだまま死んだ信者、家族は明治6年の解禁までに34人を数えた。

乙女峠には昭和26年、マリア堂が建てられたが、今も参拝者が絶えないという。

▽パークス英公使を先頭に 列国公使は

「信仰の自由を認めよ」とねじ込んできた

— パークスとの対決に起用されたのが大隈 —

大阪本願寺で午前10時から始まった会談で、まずパークスが「こんな名もなき白面書生と、英国皇帝代理の私が折衝できると思うか、無礼だ」大隈はすかさず「そっちが皇帝代表なら、こっちは天皇代表だ。いやなら、これまでの抗議は撤回したものと見做す」

大隈はパークスの性格を調べて、向こうが強く出れば強く、法理論で来るなら法律論で、と決めていた。6時間、昼食抜きでやり合った。大隈は「パークスには一点だけ、からりと晴れた所があった」「これは日本が決めた法律なのだ。どんなに異論があっても、法は守らなければならない。法律に基づいて自分の国の人間を処罰するのに、外国の指図は受けない」

パークスも、ついに折れた。

副島 種臣(そへじま・たねおみ)

文政11(1828)～明治38(1905)佐賀藩出身。明治4年参議。6年外務卿。征韓論を主張し下野。のち枢密顧問官、内相

江藤 新平(えとう・しんぺい)

天保5(1834)～明治7(1874) 佐賀藩出身。江戸開城と共に江戸鎮台判事。明治5年司法卿。6年参議。征韓論を唱えて下野。佐賀で挙兵し、高知で捕えられ処刑

沢 宣嘉(さわ・のぶよし)

天保4(1833)～明治6(1873)京都生まれの尊皇攘夷派公家。文久3年倒幕計画を立てて官位を奪われ、長州へ逃れる(七瀬)。維新後は参与、九州鎮撫総督。明治2年外国官知事、外務省設置で外務卿

切支丹禁制

明治新政府になっても続いた。慶応4年3月14日「五ヵ条の誓文」が發布され、「広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スヘシ」と新政府の方針が示されたが、この日5つの禁令も布告された。街角には、「切支丹邪宗門は旧によりてこれを厳禁す」の高札が立てられ、人民が守らねばならぬ「永世の法」に。

キリスト教解禁は明治6年2月24日。

パークス(Harry Smith Parkes)

1828～1885 イギリス外交官。上海領事を経て慶応1年駐日公使。列国の対日外交をリードし幕府支持の仏ロッシュ公使と対立、薩長勢力を支援した。明治16年清国公使となり、北京で客死した

「築地の梁山泊」

明治2年春、外国官副知事(副知事)の大隈が居を構えたのが築地本願寺脇の広大な5千石の旗本屋敷。いつも30人くらいの食客、書生がいて「築地の

- 大隈は明治3年9月、32歳で大蔵省担当参議に
- ▽現在につながる改革の手を次々と打った

- ・「新貨条令」制定(明治4年6月27日)

- 1両を1円とし 円・銭・厘の十進法を採用
- 貨幣の形を円形とし 呼称を「円」

- 十進法にするのは 大隈の発案だった

- ・学制制定(明治5年9月5日) 大学 中学 小学校設置

- ・太陽暦採用(明治5年12月9日) 太陰暦を廃止

- 七曜制にして 官庁を 日曜全休 土曜半休

- ▽大久保利通暗殺(明治11年)後は 筆頭参議に

- 明治14年10月 突然 参議を追われる

「明治14年の政変」

自由民権運動が高まっている時、大隈が3月、「15年に憲法制定、16年初めには国会を開く」との意見書を出した。漸進論の伊藤との対立が表面化したところへ起きたのが、「北海道官有物払下事件」。北海道開拓使を廃止することになり、薩摩出身の開拓使長官黒田清隆が、10年間に1,500万円投じてきた事業を、同郷の大阪の豪商五代友厚らに払い下げようとした。新聞に「39万円、無利息、30年年賦」であることが暴露され、新聞も自由民権派も「藩閥政治の弊害だ」と非難、攻撃した。

政府攻撃をしているのは、大隈と親しい福沢諭吉の慶応義塾系が多く、薩摩閥は「大隈が意図的に洩らしたのでは…」と疑った。薩長参議の間に大隈追放の密議が成立し、10月11日、明治天皇が北海道・東北巡幸から帰京されると、深夜の御前会議を開き、大隈罷免、官有物払下中止、23年の国会開設を決定した。

- ▽大隈は 翌年 立憲改進黨を結成

- 尾崎行雄 犬養毅ら 福沢門下生が大勢参加した

- ▽薩長も 大隈の外交手腕には 一目

- 黒田・伊藤・松方の薩長閥内閣で 3度 外相に

- 明治31年、60歳の時に念願の首相に

- ▽大隈の進歩党と 板垣退助の自由党が 合同

- 憲政党という 大勢力になり

- 薩長閥も 無視できなくなった(隈板内閣)

「梁山泊」と呼ばれるようになった。

その頃は、伊藤博文も井上馨も大隈の配下で、伊藤は隣の小さな屋敷に、井上は邸内の長屋にいたという。

梁山泊(りやうざんぼく)＝宋代(960~1279)に、盗賊らが山東省西部・梁山の麓の沼地に砦を結んだが、このことが「水滸伝」に記されたことから、豪傑や野心家の集まる所を言うように。

伊藤 博文(いとう・ひろぶみ)

天保12(1841)～明治42(1909)長州藩出身。参議兼工部・内務卿となり明治18年初代首相。内閣制度、憲法制定など国家体制を整備。元老として4次の内閣を組織し、枢密院議長3度。38年韓国統監。ハルビンで安重根に暗殺される

大久保 利通(おおくぼ・としみち)

天保1(1830)～明治11(1878) 薩摩藩出身。維新の三傑の1人。参議・内務卿となり版籍奉還、廃藩置県。紀尾伊坂で暗殺

黒田 清隆(くろだ・きよたか)

天保11(1840)～明治33(1900) 薩摩藩出身。明治7年参議・北海道開拓使長官。北海道開拓の基礎を築く。21年第2代首相

五代 友厚(ごだい・ともあつ)

天保6(1835)～明治18(1885) 薩摩藩出身。長崎海軍伝習所に学び慶応1年渡欧して、武器・船舶・紡績機械を購入。大阪府判事を経て明治14年関西貿易商会を設立し、大阪の実業界発展に貢献した

福沢 諭吉(ふくざわ・ゆきち)

天保5(1834)～明治34(1901) 豊前中津藩出身。幕府遣外使節に随行し3度欧米を視察。明治1年慶応義塾創設。15年時事新報を創刊し論陣を張った。著に「西洋事情」「学問のすゝめ」

▽時事新報は「薩長30年の天下を乗っ取ったのは、徳川300年の天下を乗っ取ったのに等しい」

▽画期的な意義を強調したが 4か月で崩壊した知事 局長のポスト争いで 内部分裂

▽第2次内閣でも 重要な国策リードは 常に加藤元老との板挟みになり

大隈は 専ら その調停に 走り回った感じ

●大正になって初の総選挙(4年3月25日)

▽財政危機を 思いもかけぬ 大戦景気で乗り切り 軍備拡張に お金の制約が なくなった

▽大正4年度予算案に

陸軍念願の 2個師団増設案を 盛り込んだ

野党 政友会に否決されると 議会を解散

▽結果は 与党 立憲同志会の 大勝利だった

95議席から 153議席と 飛躍的な伸び

政友会は 202議席から 108議席に激減

▽「大正政変」の引き金になった「軍拡反対」も

大戦景気と 対独戦争に かき消されてしまった

組織選挙になり、金がかかるように

政党が初めて候補者に公認料を支給し、大隈首相以下全閣僚が全国遊説に出た。中でも人気があったのが、大隈の「車窓演説」。列車の停車時間を利用して駅前に集まった群衆に喋りまくったが、演説はレコードにも吹き込まれ、各地の与党候補者に送られた。有権者には候補者の政見が郵送され、運動員は、候補者の略歴入りの大きな名刺を持って、戸別訪問した。最低でも5千円の選挙費用がかかったという。

前田蓮山(時評記者)は「大隈内閣の選挙は、選挙戦術の革命であった。多年、絶対多数の上で安座し、選挙人を甘く見ていた政友会は、大隈内閣の複雑怪奇な新選挙戦術の不意打ちに会って、右往左往の状態であった」

●大隈は総選挙に勝利し得意満面だったが…

▽中国政府は 大戦に 中立宣言していた

青島中心の地域を 交戦区域に定め

日本軍と「交戦地域限定協定」を結んだ

犬養 毅(いぬかい つよし)

安政2(1855)～昭和7(1932) 岡山県生まれ。明治23年衆院議員(連続当選18回)。「憲政の神様」と称され、昭和4年政友会総裁。6年首相となり満州事変後の政局に当たったが、五・一五事件で暗殺

板垣 退助(いたがき たいすけ)

天保8(1837)～大正8(1919) 土佐藩出身。征韓論争に敗れ、参議を辞職。明治7年「民撰議院設立建白書」を提出し自由民権運動の先駆に。14年自由党を結成、15年刺客に襲われる。31年改進黨と合流し憲政党を組織、大隈内閣内相

中江兆民は書いている

「壮快は愛すべし。が、宰相の材でない。智はあるが、慮に乏しい。だから百敗ありて一成がない。在野で相場師だったらよかった」(一轉半)

中江 兆民(なかえ ちょうみん)

弘化4(1847)～明治34(1901) 土佐藩出身。明治4年フランス留学。自由民権思想の啓発に努める。喉頭ガンで余命1年有余と告げられ、「一年有半」「続一年有半」を執筆、「民権至理也」と叫び続けた

前田 蓮山(まえだ れんざん)

明治7(1874)～昭和36(1961) 長崎県生まれ。本名又吉。時事新報記者として活躍、読売新聞論説委員。著に「原敬伝」

…… 大正デモクラシーの象徴選挙 ……

政治とは縁のなかった知識人、作家とか画家、医師などが理想選挙、模範選挙の旗印を掲げ、続々と立候補した。郷里の京都から立った歌人と謝野鉄幹もその一人で、応援演説には晶子夫人、久保田万太郎(劇家)吉井勇(歌人)小山内薫(劇家、翻訳家)らが駆け付け、華やかな選挙に。

▽ところが 日本軍は これを無視し

山東鉄道全線を押さえ 経営管理に当たった

▽中国公使・日置益は

軍事行動の範囲が 広過ぎること

日本軍による暴行 乱暴な物資調達

「問題になっている」と 政府の善処を求めた

▽中国政府は 大正4年1月7日

日本軍の即時撤兵を 要求してきた

●日本が回答の形で出したのが「21カ条要求」(1月18日)

▽第1号から第5号まで 全部で 21項目

一見して 広範囲で 苛酷なものだった

▽日本の 最大の眼目は 第2号第1条

旅順 大連の租借権 満鉄(滿洲鐵道)の99ヵ年延長

— 旅順、大連は25年と短かった —

当時の租借期間は99年が慣例で、青島(嶺)、威海衛、九竜半島(嶺)、広州湾(嶺)も、99年だった。ところが日露講和条約でロシアから譲り受けた旅順、大連だけは25年。8年後、大正12年には返さなくてはならない。満鉄にしても、完成から36年経てば中国は買戻権を持つことに。

..... ロシアが良心的だったわけではない

ドイツが、山東半島での独人宣教師殺害を口実に膠州湾(嶺)を占領すると、清国は同盟を結んでいるロシアに泣き付いた。ロシアは「ドイツから守ってやる」と旅順に艦隊を送り、そのまま占領してしまった。清国の嚴重抗議に、さすがに租借期間を短くした。

ロシアが臆面もなく99年にしていたら、日本は焦る必要もなかったし、もっとゆっくり、満鉄を軸に満州経営を進めよう。あるいは、満州事変は起こらなかつたかも知れない。

▽満州は 日本人に 特別な思い入れの土地

日露戦争で 20億円の戦費 大勢の血を流した

▽「旅順、大連、満鉄をそのまま持っていたい」

ほとんどの日本人 共通の願望だったろう

●加藤は早くから「自分の手で解決」を考えていた

与謝野 鉄幹(よさのてつかん)

明治6(1873)～昭和10(1935) 京都府生まれ。本名寛(ひろし)。明治29年詩歌集「東西南北」を出版。33年雑誌「明星」を創刊し、晶子と結婚、浪漫主義運動の中心となった。大正7年～昭和7年慶大教授。10年には文化学院を創設した

与謝野 晶子(よさのあきこ)

明治11(1878)～昭和17(1942) 大阪堺生まれ。本名は志よう。明治33年来阪した鉄幹と知り合い、翌年家を捨てて上京、処女歌集「みだれ髪」を出版し鉄幹と結婚。「新訳源氏物語」全4巻を出版。教育・婦人・社会問題に関する著述も多く、文化学院創設に参加し、教鞭もとった

日置 益(ひき・ます)

文久1(1861)～大正15(1926) 三重県生まれ。明治24年外務省に入り、チリ公使を経て大正3年中国公使。9年駐独大使

— 「21カ条要求」 —

第1号 山東省に関する件

(第1条)山東省のドイツ利権の処分は日独両国間協定に一任すること (第2条)山東省内での他国に対する領土譲与ないし貸与の禁止 (第3条)山東鉄道との連絡鉄道敷設権を日本に与えること (第4条)山東省主要都市を外国人の居住貿易用として開放すること

第2号 南満州及び東部蒙古に関する件

(第1条)旅順、大連の租借権と南満州、安奉両鉄道に関する期限の99ヵ年延長(第2条)日本人に対する土地貸借権、所有権の承認(第3条)日本人の居住権、商工業従事権の認可 (第4条)日本人に対する鉱山採掘権の承認 (第5条)他国人に鉄道敷設権を与えたり借款を起す場合は日本政府と協議すること (第6条)政治、財政、軍事に関する顧問を必要とする場合は

- ▽大正2年1月(麒麟使) 桂内閣外相として帰国する時
グレー外相に「日本は旅順を永久に占領する積
もりだ。いずれ機会を見て中国と交渉する」
- ▽グレーは「貴方の言葉をイギリス外務省の文書に
残しておく」暗黙の了解を与えたという

●外交では「give and take」が原則

- ▽加藤にとって 絶好の機会が
第1次大戦の勃発によって 突然 訪れたのだ
- ▽対独参戦し 青島を占領することこそ 取引材料
占領後の「青島還付」を「与える材料」に
- ▽要求を 旅順 満鉄に 絞っていたら
あれほど 非難されることは なかったし
中国も 渋々 認めたように
もっと すんなり 纏っていたらう
- ▽ところが この際だと「あれもこれも」と
政党 軍部 実業界から 宗教界に至るまで
雑多な要求が「籠いっぱい」に 盛られた感じに
- ▽加藤は「全部が全部要求したわけではない。
中には希望もあったのだ」後の祭りだった
- ▽21という要求の多さが「不当な国日本」
- ▽理不尽な要求は抑え 最小限の要求に
纏めることこそ 外交責任者の責任だった

●もっと拙劣だったのが、交渉の進め方だった

- ▽日本は 欧米各国に 内容を事前通告したが
知らせたのは 第4号までの 14項目だけ
- ▽非難が集中したのは 秘密にした 第5号7項目
「日本が中国植民地化を企んでいる」と
言われても 仕方のない 項目ばかり
- ▽会談は 2月2日から 北京で始まったが
加藤外相は 交渉を 秘密のうちに進め
一気に 既成事実を 作ってしまおうとした
- ▽日置公使を通じて 袁世凱大總統に
「絶対秘密」を 申し入れたが
外交交渉に 外圧を利用するのは 中国の伝統
- ▽袁世凱は いち早く 英米の公使に 洩らしていた
- ▽2月19日 21ヵ条全文が シカゴ・ヘラルドに
米政府の問い合わせで 第5号を認める羽目に
- ▽山県たち元老も 新聞報道で 初めて知った

日本政府と協議すること (第7条) 吉長鉄道の管理経営を99ヵ年日本に委任すること

第3号 漢冶萍公司(かんやひょう・こうす=漢陽の製鉄、大冶の鉄山、萍鄉の石炭を一体として明治41年に設立された会社。横浜正金銀行からの資本が投資されていた)に関する件

(第1条) 同公司を日中合弁とし、中国はその権利、財産を日本国に無断で処分しないこと (第2条) 同公司付近の鉱山探掘権を公司以外に認可しないこと

第4号 沿岸不割譲に関する件

中国政府は同国沿岸の港湾、島嶼を他国に譲与、貸与しないこと

第5号 懸案その他解決に関する件

(一) 中央政府における政治、財政、軍事顧問として日本人を採用すること (二) 中国内部における日本の病院、寺院、学校に対する土地所有権の認可 (三) 必要な場合、地方警察は日中合同とするか、多数の日本人を採用すること (四) 日本から一定の武器供与をうけるか、日中合弁の兵器廠を設立すること (五) 南昌を中心とした揚子江中流域での鉄道敷設権を日本に許与すること (六) 福建省において鉄道、鉱山、港湾設備に関する外資を導入する場合、まず日本と協議すること (七) 中国における日本人の布教権を認めること

..... 「火事場泥棒」

大戦の後、ヨーロッパの辞書に日本語のまま載った。「強国の油断を見てうまい汁を吸うこと」と、意味が書いてあったという。国中が酔った「うまい汁」のツケは大きかった。

陸軍で言えば、兵器の面で外国とは天と地ほどの開き。大戦では、飛行機が初めて爆撃に使われ、戦車、毒ガスなど、新兵器が続々と登場した。観戦武官として従軍した砲兵大佐が装備強化の意見具申をしたところ、「敗戦

▽5月2日まで 27回の交渉は 完全に 行き詰まった
▽米國務長官は「中国の独立と領土保全」を訴え
グレー外相も「英国世論は、これを同盟精神の
違反と考えるだろう」と 懸念を通告してきた

●大隈内閣は、問題の第5号を外し最後通牒、

▽5月4日 元老を交えての閣議で

山県は「私の意見は、ご採用にならんか」

「名は正しく、事は順ならざるべからず」

▽最後通牒にも 反対した

「日本の死活問題である満州で中国が譲歩して
いるのに、戦争に訴えるやり方は最悪の策だ」

▽加藤が「責任をとって辞職する」

元老にも 弱みがあった 外相辞職は総辞職に

大隈の後の首相候補を 見付けられずにいた

▽山県が「意見を述べて参考に供したまでだ」

大隈内閣は 5月7日 中国に 最後通牒を出した

●中国政府は5月9日受諾、この日を「国恥記念日」

▽反日・排日運動の火が 中国全土に

▽井上馨(敏で謙を嫌)「およそ今度の外交くらい失敗
した外交はない。日本の百年の計を誤るものだ」

▽「21カ条要求」の代償は 大変 高いものについた

▽中国侵略者は それまで イギリス ロシア

ドイツ フランスだったのに 代わって

日本だけが 非難の矢面に 立たされることに

▽中国人留学生(5千人)は 帰国し 反日運動の先頭に

上海で始まった「日本品不買運動」は

瞬く間に 中国全土に 広がっていった

▽事あるごとに 反日宣伝の材料に 使った

▽ワシントン会議(1919年)で 中国代表は

「一服だけでも中国を毒殺できる劇薬なのに

日本はそれを二十一服も盛ったのだ」

▽まさに 日中対立を決定的にした「21カ条要求」

●国内世論は、「21カ条要求」をどう見たのか

▽新聞論調は ほとんどが

大陸発展論 強硬外交を支持して

日本人の大国意識 中国蔑視の風潮を煽った

▽石橋は「第二の露、第二の独たる勿れ」と反対

主義」のレッテルを貼られ、陸軍を追
われた。「必勝の信念」こそ大切と、研
究、開発はそっちのけで、精神主義だ
けが強くなっていった。

ドイツは大正7年、サブ・マシンガン
を開発、アメリカも短機関銃(トウガン)
を作っている。禁酒法時代のギャン
グに流れてハリウッド映画おなじみ
の派手に撃ちまくる場面になるが、
ギャングだって1分間に500発撃てる
マシンガンを持っているのに、日本
は支那事変まで三八式歩兵銃(贈38年
翻)を使い続けた。

— 新しい時代の流れを見落とした —

ドイツ、オーストリア、ロシアと、ヨー
ロッパの王朝が姿を消し従属していた
民族が自立した。大英帝国でさえ、大戦
に多くの兵士を送り出した自治領各国
(カナダ、オーストラリア)の意見を無視できなくな
った。米国の発言力も強くなった。

日本は、帝国主義の時代が終わり膨張
主義が否定されたことを見落とした。
アジアで日本のことをとやかく言う国
はないと、ゴーイング・マイウェイを続
けてしまった。

— 石橋堪山の反対論 —

「満州併合が如何に我が朝野大多数の
強大な感情であるにしても、これは、我
が国の運命にとって、ゆゆしき問題で
ある。もし強いてこれを強行せんか、吾
輩より見れば、此のうえなき無謀の挙、
我が国をして第二独逸、第二の露国た
らしむるものである。この故に、吾輩は
我が国家の、真の安全と自由と名誉の
為に、朝野の大多数、一代の感情に逆行
しても、これに反対せざるを得ない」

そして「日中関係は帝国主義を捨て、
親善の関係を結ぶ他にない」

▽日刊紙では ただ1紙 読売新聞社説は

人間として 国としての在り方を 説き

「手前の都合のみを考へずして、暫らく身を
支那側に置いて考ふるを要す」と 訴えた

執筆者は 外交官出身の編集顧問 秋月左都夫

▽日本は 条約改正に 苦勞した

「安政の五条約」で 不平等を 押し付けられ

治外法権を撤廃させたのが 41年後の明治32年

関税自主権回復は 53年後の 明治44年

— 石橋は「異彩放ちし読売の社説」 —

独り卓然として、我が要求の苟も独立国に対してなすべからざる不当のものなること、支那の態度の決して不誠実ならざることを連日主張して、時局を正しき方向に転ぜしめんと努力した。(東洋経済新報5月15日)

— その頃の読売新聞 —

関東中心のブロック紙で経営は苦しく、何とか苦境を切り抜けようと紙面に工夫をこらした。編集顧問に秋月を迎えたのもそうだし、大正3年4月には、日本で最初の婦人のための1頁全面編集の「よみうり婦人付録」を創設した。今日の婦人面、家庭面の原型で、執筆陣強化のため与謝野晶子も請われて入社した。

▽与謝野晶子も 読売「日曜付録」(5月16日)に

「怖ろしき兄弟」と題して

日本を 思いやりの欠けた 総領の甚六にたとえ

隣家(中国)に押し掛け

「土地や財産を寄越せ」と わめき立てる

けしかける兄弟は いても

咎める者はいないと 嘆いた

●「明治の第二世代の野心、功名心が、先人たちの作った日本を台無しにした。そして大正世代が、その犠牲になった」

▽大隈内閣でも 加藤高明の

「自分が日本の外交を決めてやる」

野心、功名心が 日本の道を誤らせたのでは…

秋月 左都夫(あきつき・さむお)

安政5(1858)～昭和20(1945) 明治24年
外務省に入り、37年スウェーデン公使。
ベルギー公使、オーストリア大使。パリ
講和会議全権団顧問、読売顧問を歴任

— 与謝野晶子の「怖ろしき兄弟」 —

ここの名前人は総領の甚六がなつてゐる。欲ばかり勝つて思ひやりの欠けて居る兄だ。不意に隣の家へ押しかけて庇ひ手のない老人の半身不随の亭主に「きさまの持つて居る目ぼしい地所や家蔵を寄越せ。おらは不断おめえに恩を掛けて居る。おらが居ねえもんなら、おめえの財産なんか遠の昔に近所から分け取りにされて居たんだ。その恩返しをしろ」と云つた。なんぼよいよいでも、隣の爺には性根がある。あるだけの智恵をしぼつて甚六の言ひ掛りを拒んだ。

押問答が長引いて、二人の声が段々荒くなつた。文句に詰つた甚六が得意な最後の手を出して、拳を振上げ相になつた時、多勢の甚六の兄弟ががやがやと寄つて来た。

「腰が弱えなあ、兄貴」「脅しが足りねえなあ、兄貴」「もっと相手をいぢめねえ」「なぜ、いきなり刃物を突き付つけねえんだ」「文句なんか要らねえ、腕づくだ、腕づくだ」

こんなことを口口に云つて、兄を罵るばかりである。

ほんとに兄を思ふ心から、なぜ無法な言ひ掛りなんかしたんだと、兄の最初の発言を咎める兄弟としては一人も居なかつた。おゝ怖ろしい此処の家の名前人と家族。